

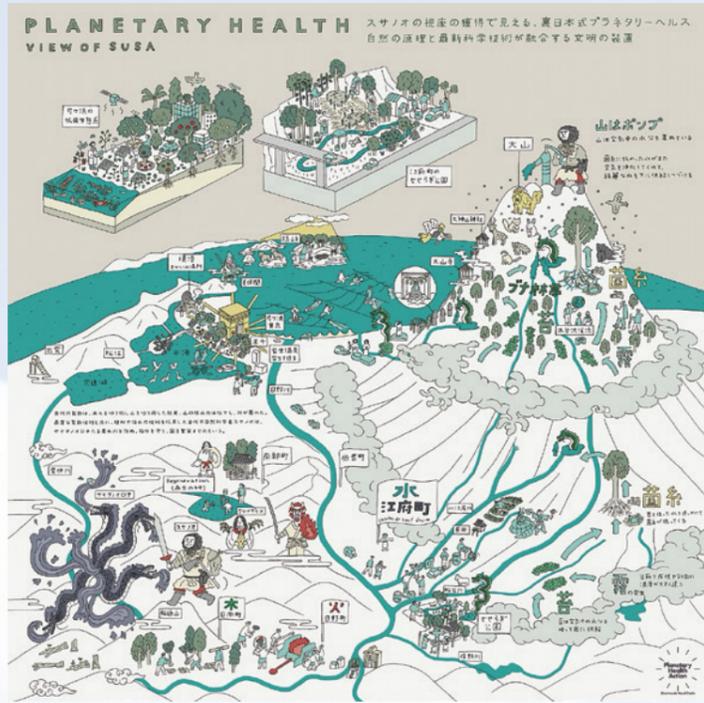
特別寄稿

# 神道的自然観とプラネタリーヘルス

～今、世界に求められる日本の精神性～

桐村里紗

天籟株式会社代表取締役医師  
プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表理事



▲素戔嗚をモチーフにした鳥取-島根のプラネタリーヘルスマン荼羅図

禁足地として守り、その水の恵みによってカエルや渡り鳥などを育む田んぼに稲が実れば、土着の微生物によって酒を醸し、感謝と共に神に捧げる祭りを催し、人は神と一体となります。たくさんさんの生命が生まれて死んで、何かの生命が別の生命を養っていき、変幻自在な神の働きが万物を結び合わせる里山で、人は日々の営みの中で、食べ物をいただくことで風土と一体となりながら、自然環境を豊かにする再生型の社会を築き上げてきたのです。

そうした営みは、特に戦後に大加速した開発によって失われつつありますが、今でも、全国の神社の奥には、私たちの生命を育む水をたたえ、生き物たちを育む鎮守の杜が神聖な場所として存在します。新嘗祭には、天と地の恵みによって実った新穀を感謝と共に神に奉りますし、私たちの地元の鳥取では祝いごとには素戔嗚の伝承を元にした荒神神楽を奉納します。四季に応じた行事や伝統的な食文化、生活文化は、気候風土

## 日本の「神道の自然観」は、人と自然を結び直す精神的柱となります。

私は医師として、人が当たり前に生きること健康に幸せになる世界を目指してきました。残念ながら、今は、人が生きることでも人も社会も自然環境も病気になる時代です。科学技術が発達しても、増え続けるがんや認知症、うつや子供の発達障害。混乱した社会の中で経済格差は埋まらず、自然環境の劣化が続いています。人の健康や幸せ、豊かさを求めて経済活動が増えれば増えるほど、それと相關して自然環境が劣化し、それによって環境の中に生きている人は、結局、心身を病んでしまう。そんなジレンマがあります。



▲神々と共に生きることは、日本の美しい精神文化です

これではいけない！と、国際的に掲げられたのが、「プラネタリーヘルス（地球の健康）」です。人は地球の一



▲山が豊かになると水辺の生態系も豊かになる

部であるという考えを前提に、人の健康や幸福だけでなく、人とつながるコミュニティ、社会、経済、政治など人のつくる文明、そしてそれらとつながる生態系などの地球上のすべてのシステムの健康を、立場を越え、分野を超えた連携によって実現させようという大目標です。人類社会を支える自然生態系を回復させるネイチャーポジティブ経済を基盤にしながら、人と自然を切り分け、自然を支配してきたこれまでから、人と自然を一体とし、共存共栄する世界への移行が求められています。



▲日本唯一の伝統技法「檜皮葺き」小國神社の社殿は自然素材を使い自然な循環が営まれている

に、私たちが古来から大切にしてきた日本の神道的自然観や精神性を思い出してみたいのです。私たちの先人は、古来から森羅万象に神性を見出し、自然の摂理を神として敬ってきました。あらゆる生命を育む山や水を岩や大木、そして湧水や川、土、太陽、火など、八百万の神は、あまねく私たちの身の回りに存在していました。あらゆる生き物やモノに宿る神は、私たちが生かし、ときに命を奪います。その大いなる働きに畏怖畏敬の念を持ち、その働きの中に生きる人も神としての自然と一体である尊い存在であることを先人たちは知っていました。さまざまな生き物や水を育む奥山を



▲小國神社の新嘗祭 宮司祝詞奏上 神様に「五穀豊穡」の感謝を捧げます

に根ざしたその土地の恵みによって私たちが産土の神と結んでくれます。神道は、私たちに万物との結びを教え、生きることが欲びであり、尊いことだと思わせさせてくれます。「道」とは、この世界の真の理を心技体によって獲得すること。神道は、自然の摂理としての神を自らに身体化することだと捉えるとき、私たちは森羅万象全てを自分ごととし、人だけでなく地球全体の利を自らの欲びとする生き方ができるのではないのでしょうか。日本の神道的自然観は、人と自然を結び直す精神的柱となります。歴史文化気候風土に根ざした日本のプラネタリーヘルスが各地に立ち現れ、世界に開かれることで、人と自然が共存共栄する未来が紡がれていくことを描いています。

プロフィール

天籟株式会社代表取締役医師  
プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表理事  
東京大学大学院工学系研究科  
バイオエンジニアリング専攻  
道徳感情数理工学講座主宰兼共同研究員

桐村里紗



著書紹介  
医師として予防医療から終末期医療まで幅広く臨床経験を積んだのち、「プラネタリーヘルス」の推進による地域創生を行う。鳥取県「大山の流域」と東京「丸の内エリア」を拠点に都市とローカルの流域を結び、人と自然が融合する未来文明の萌芽を描く。著書に、『腸と森の「土」を育てる 微生物が健康にする人と環境』（光文社新書）他多数。